

Shishimai Gallery

時代が移り変わっても
語り継がれる塚崎の獅子舞

次の世代へつなげ！ 伝統のたすき

伝統を守るのは大変なことです。舞を伝えるだけでなく、篠笛は楽譜もなく、手作りのこの土地独特のものであります。そして、お祭りのたびに行う「さぼし（風にあて干す）」。昔はキジの羽根を使ったといわれて

いる「羽根うえ」など、大勢の人によって支えられてきました。お祭りの日、舞を奉納するには、身を清め、世話人の介添えで支度をします。やがて、支度が整うと、境内には露払いとしてヒョットコが登場し、獅子が舞う場所の「庭とり」をします。準備が終わると、いよいよ獅子舞がはじまります。「せきもんど



世話人が支度を手伝います



先輩の姿を見て覚えていきます



舞の指導をする大賀会長



他地区との境界で「辻止め」を行います



笛に合わせて勇壮に



獅子の隠居様が本殿へ移られます



舞に欠かせない篠笛の響き



子どもたちの獅子舞披露も見どころ



親世代から子世代へ受け継がれる音色



勇壮な舞



平成29年2月圏央道境古河IC〜つくば中央IC開通セレモニー



花笠をつけた4人の男達を山に見立てた舞



獅子堂の見学を行う静小3年生のみなさん

り」の舞は、勇壮な風がけさばきに、太鼓と篠笛の音色は、祭りのなごやかさの中にも、どこか雅やかさが感じられます。やがて、笛の調べが変わり「うずめ」の舞へと続いていきます。舞ひとつ一つに込められた物語は、きつと獅子舞のルーツにつながっているのだと思います。

獅子舞が刻んできた長い歴史の中には、お祭りの時の奉納舞だけでなく、命がけの雨乞いの舞、大洪水や獅子堂の火災、そして悲しい戦争もありました。多くの試練を乗り越え、獅子舞は20世紀から21世紀へと世紀を越えて受け継がれてきました。

この道のりの陰には、大勢の先人達の様々な想いが込められて、今につながっています。

獅子舞の継承 今、時空を越えて

獅子は「オシシサマ（御獅子様）」と呼ばれ、塚崎の香取神社の境内にある八龍神社（獅子堂）に祀られています。かつて、獅子舞を受け継ぐ事は

伝統を守り つなぐ意義

塚崎の獅子舞の起源ははっきりとはわかりませんが、赤い風がけの女獅子の着物には、「アゲハチョウ」の家紋が入っています。さかのぼれば、平氏につながるのかと、大きなロマンの中に想いを



アゲハチョウの家紋

この土地に生まれ育った長男のみに与えられた特権で「獅子講」という仲間に入り、そこで手から手へと伝えられてきました。獅子講は、隠居、親方、世話人からなり、隠居は相談役または顧問、親方が後進の指導にあたり、世話人は親方を補佐する役目を果たします。

時は流れ、少子化が進み、生活スタイルも変わった現代、長男というしびりをなくし、一生懸命守っていかうという地域住民の願いに支えられ、獅子舞保存会は活動しています。

塚崎の子どもたちへの継承活動も盛んに行われています。静小学校の児童については、校外学習として獅子堂の見学や、「静小まつり」での獅子舞の発表、校内学習として獅子舞の体験が実施されています。境特別支援学校でも4月の「回しさら」の時、学校に立ち寄り子どもたちが塚崎の獅子舞を鑑賞します。

塚崎に縁のある子どもたちが自然な形で獅子舞に触れ、塚崎の誇り、ひいては境の誇りの継承を願っているのです。

馳せ、静かに目を閉じずにはいられません。いつの時代も、女性には家族の平安と子孫の変わらない繁栄を願っているのでしょう。伝統を守り、つなぐ意義を感じました。紋は、袴の中ですっぽりと隠れ、決して人には見せずにつなぐってきたのです。

これは、塚崎の人たちが、しっかりと次の世代へとつないできたからこそだと思います。次の香取神社の祭礼は、4月15日です。この伝統ある「塚崎の獅子舞」を、共に後世につないでいきますか。

VOICE

塚崎獅子舞保存会のみなさんがつなぐお孫さんへのたすき



いつか獅子舞をやってみたいです。じいちゃんの後を継ぎたい！

●羽部吉造さん 片倉大翔くん（静小3年）



獅子舞はカッコいい！練習は難しいけど4代目としてやりたい！

●大賀政治さん 蒼司くん（静小3年）



男らしくてカッコいい！兄弟で獅子舞をつけるようにがんばりたい

●山中力夫さん 唯吾くん（静小3年）